

疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会における検討の状況について

1. ICD-O (International Classification of Diseases for Oncology : 国際疾病分類 腫瘍学) 第3版の作成

世界保健機関 (WHO) により定められた ICD (「疾病及び関連保健問題の国際統計分類 : International Statistical Classification of Disease and Related Health Problems」) の診断関連分類として、これまでに第3巻まで作成されている。

- 第1版は、昭和51(1976)年にICD-9(第9回修正)の補助分類として、WHOが作成。
- 第2版は、平成2(1990)年ICD-10(第10回修正)の補助分類として、WHOが作成。
- 第3版は、平成12(2000)年ICD-10(第10回修正)の補助分類として(白血病及びリンパ腫の部分の改訂を主として)、WHOが作成。

2. 日本語版作成の経過等

厚生労働省に設置された社会保障審議会統計分科会のもとに、疾病、傷害及び死因分類腫瘍学委員会(委員長松尾宣武 国立成育医療センター総長)を設置し、事務局において作成した日本語原案に基づき、日本病理学会の協力を得て作業を行い、計3回の討議を経て日本語版を作成した。

今回の第3版は、ICD-10のもとでの2回目の出版であり、その改訂の主目的は、白血病及びリンパ腫の大幅な変更によるものである。これは、WHOが医学の進歩に迅速に対応しようとしたものであり、我が国としてもこれを迅速に発表するよう努めた。また電子化に対応するため、日本病理学会の作業協力を得て、1コード1疾患になるよう用語整理をした。

3. 日本語版の刊行について

本年12月20日に刊行した。